

## 平成27年度第2回林業研究所試験研究評価委員会評価結果

試験研究評価委員会における評価委員（学識経験者2名、林業経営者1名、建築設計士1名）の事後評価結果の概要は以下のとおりです。

### ●ヒノキ低密度植栽における育林経費の低減に関する研究

評価平均点 17.25 点

#### 【評価項目】

目的の達成度： ある程度目標を達成した(4)

得られた成果： ある程度得られた(4)

成果の発展性： 大いに普及させる(2)、ある程度普及させる(2)

今後の進め方： 関連研究を積極的に発展させる(3)、発展させた方がよい(1)

#### 【その他特記事項】

- ・5年ごとの定期調査、材品質ならびに個体成長量についての資料蓄積を期待する。
- ・県事業に対するフィードバックをしていただきたい。
- ・低密度の効果は通常の密度と対比させないと理解しづらく感じる。

### ●オオイチョウタケ施設栽培技術の開発

評価平均点 16.75 点

#### 【評価項目】

目的の達成度： ある程度目標を達成した(4)

得られた成果： ある程度得られた(4)

成果の発展性： 大いに普及させる(3)、ある程度普及させる(1)

今後の進め方： 関連研究を積極的に発展させる(1)、発展させた方がよい(3)

#### 【その他特記事項】

- ・林地での栽培技術と商品化に向けた取組を期待する。
- ・試食を押し進めてほしい。
- ・どのようなプレミアムがあるのか。たくさん収穫できないとするとこのことがポイントになる。
- ・オオイチョウタケの林内栽培の促進を、県として今後さらに支援されたい。

### ●低エネルギー消費型きのこの栽培システムの開発

評価平均点 17.50 点

#### 【評価項目】

目的の達成度： 期待以上に目的を達成した(2)、ある程度目標を達成した(2)

得られた成果： ある程度得られた(4)

成果の発展性： 大いに普及させる(3)、ある程度普及させる(1)

今後の進め方： 関連研究を積極的に発展させる(1)、発展させた方がよい(3)

【その他特記事項】

- ・緩衝作用を持つ木質系材料も培地に使って比較してほしい。
- ・どれくらい価値のあるキノコか知るために試食して評価した。売るための戦略が重要。
- ・ウスヒラタケ、タモギタケの施設栽培の促進を、県として今後さらに支援されたい。

●木質外壁の経年劣化に関する調査

評価平均点 12.25 点

【評価項目】

目的の達成度： ある程度目標を達成した(1)、あまり目標を達成していない(3)

得られた成果： ある程度得られた(1)、あまり得られていない(3)

成果の発展性： ある程度普及させる(3)、あまり普及させるべきでない(1)

今後の進め方： 関連研究を積極的に発展させる(1)、発展させた方がよい(2)、  
発展させない方がよい(1)

【その他特記事項】

- ・5～10年毎にするよう継続性を考えてほしい。
- ・板の張り方、赤身がどうか、伝統的な張り方と近代的な張り方の違いなど検討する要素はまだまだある。
- ・予想どおりの結果と考える。メンテナンスの目安について示してほしかった。
- ・表題にあるとおり、「経年劣化」を評価するには、時間軸の把握が重要。新しい定量評価法を提案していただきたい。